



鶏 けいめい 鳴

2009年3月8日(第23号)

イエスの言葉

『安心しなさい。わたしだ。恐れることはない』

聖書(マタイ福音書 14章 27節)

牧師 河合裕志

弟子たちだけで舟に乗って行った時の話し。帆を上げてガリラヤ湖の向こう岸を目指して進んだ。初めスイスイ波を切り順調に進んだが突然がらりと風向きが変わり向うから強い風が吹きつけて来た。急ぎ帆をおろし櫂を手にする。一行12人は力を合わせ「逆風」に立ち向う。多くの弟子達はこの湖で漁師をしていたので、なんのこれしきと立ち向ったがこれまで経験したことのない強風と波にこれは無理かな、呑み込まれるかななどの思いがよぎった。

この様子を山の上から見ている者がいた。イエスだ。「舟は逆風のために波に悩まされていた。夜が明けるところ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた」。救出作戦だ。しかしこの作戦は人知を越えている。ジャブジャブと湖上を、水の上を歩いて行く。こんなことって誰にも出来る芸当ではない。岸边を歩いて行く訳じゃない。

弟子達はこれに気付いてびっくり仰天。「幽霊だ、と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた」。ビュービューと髪を振り乱し荒波を蹴って来る不気味な存在。私達ももしそこに居合わせていたなら同じように反応していたことだろう。

その時声がかかった。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」。それは聞き覚えの

ある声。そして今眼前にイエスその人を見た。誠に信じ難いこと。しかし確かにイエス。そしてイエスが舟に乗り込むと風は静まった。

これは現実には起こった事なの。フィクションじゃないの。現場にいないのでわからない。ただ言えることはその後キリスト教会2千年の歩みは常に「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」とのイエスの声を聞いて来たということ、これは確か。洋の東西を問わず教会は大海に浮かぶ舟のように時に逆風に悩まされた。血を流す人々も少なくなかった。風前の灯。そんな時彼らはイエスの励ましの声に接し、気を取り直し、新たな勇気を得てなお前に進むことが出来た。

個人の歩みでも同じ。目下日本を世界を不況の逆風が吹きつけている。次々と首切りが行われ明日はわが身かとおののいている。こんな時聞くべきはやはりイエスの声。「安心しなさい。わたしだ、わたしがあなたと共にいる。だから恐れることはない。必ず道は開かれるよ。備えられるよ。どうか絶望しないで。命を落さないで」。

集会案内

主日礼拝 : 毎日曜日午前10時15分
 子どもの教会 : 毎日曜日午前9時
 高校生会 : 毎日曜日礼拝後
 婦人会・壮年会 : 第2日曜日礼拝後
 聖書を学ぶ集い : 第4水曜日午前10時
 オリーブの会(読書会) : 第3月曜日午前10時